

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 中野市地域公共交通対策協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
長電バス株式会社	立ヶ花線 中野駅⇔立ヶ花駅	・利用促進を図るため、市内全世帯、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への「交通マップ/時刻表」の配布や小学生を対象とした「バスの乗り方教室」等を行った。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C ・事業が計画に位置付けられた目標を達成しなかった。 【1日あたり利用者数】 目標…22.0人 実績…14.2人	・新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、利用者数は減少傾向が続いており、今後の回復に期待したい。 ・利用者減の対策として、運行事業者は消毒、換気の徹底を行っており、協議会としても、毎年10月に全戸へ配布する交通マップへ、コロナ感染症対策に配慮して運行している旨と、利用者へのマスク着用等の協力依頼を掲載し、周知を行い、安心安全に利用いただけるよう取り組んでおり、今後も引き続き行うこととしている。 ・また、引き続き広報等を通じ利用促進を図るとともに、目標値やダイヤの見直しについても検討する。
中野市	ふれあいバス間山線 温泉公園⇔市役所	・利用促進を図るため、市内全世帯、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への「交通マップ/時刻表」の配布や小学生を対象とした「バスの乗り方教室」等を開催した。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C ・事業が計画に位置付けられた目標を達成しなかった。 【1日あたり利用者数】 目標…26.0人 実績…24.9人	・目標を達成することは出来なかったが、昨年度の実績(23.2人)を上回る結果となり、今後の回復に期待したい。 ・広報等を通じPRIに努めるとともに、利便性が向上するようなダイヤの見直しについても検討する。
中野市	ふれあいバス倭・科野地区 岩井東⇔市役所	・利用促進を図るため、市内全世帯、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への「交通マップ/時刻表」の配布や小学生を対象とした「バスの乗り方教室」等を開催した。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A ・事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【1日あたり利用者数】 目標…11.0人 実績…11.4人	・目標を達成しているが、引き続き広報等を通じPRIに努めるとともに、利便性が向上するようなダイヤの見直しについても検討する。
中野市	ふれあいバス豊田地域 三俣⇔上今井	・利用促進を図るため、市内全世帯、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への「交通マップ/時刻表」の配布や小学生を対象とした「バスの乗り方教室」等を開催した。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A ・事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【1日あたり利用者数】 目標…4.0人 実績…4.3人	・目標を達成しているが、引き続き広報等を通じPRIに努めるとともに、利便性が向上するようなダイヤの見直しについても検討する。
中野ハイヤー株式会社 株式会社山田タクシー 長電バス株式会社 (共同運行)	お出かけタクシー 中野・高丘・平野・延徳地域	・利用促進を図るため、市内全世帯、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への「交通マップ/時刻表」の配布、老朽化した停留所の整備を行った。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C ・事業が計画に位置付けられた目標を達成しなかった。 【1日あたり利用者数】 目標…3.0人 実績…1.4人	・利用者数は前年度比でほぼ同程度となった。 ・利用者減の対策として、運行事業者は消毒、換気の徹底を行っており、協議会としても、毎年10月に全戸へ配布する交通マップへ、コロナ感染症対策に配慮して運行している旨と、利用者へのマスク着用等の協力依頼を掲載し、周知を行い安心安全に利用いただけるよう取り組んでおり、今後も引き続き行うこととしている。 ・固定化している利用者の減少が課題となっているため、根本的な運行形態の見直しを含めて検討する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	中野市地域公共交通対策協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>生活交通確保維持改善計画では、中野木島線、上林線、菅線(旧菅・角間線)、合庁線、永田線を基幹バス路線と位置付け、立ヶ花線、ふれあいバス、お出かけタクシーは枝線バス路線と位置付けている。枝線バス路線は、集落内を細かく回り、自宅近くから目的地若しくは、鉄道、基幹バス路線へアクセスし、利用目的は、通勤・通学・通院・買物と多岐にわたる。1便当たりの平均利用者数は決して多くはないが、日常的な生活の足としている利用者がいる。</p> <p>児童・生徒や高齢者等のマイカーを持たない人にとっては、生活の足として必要不可欠な路線であり、タクシー以外の代替する公共交通手段が存在しないことから、立ヶ花線、ふれあいバス、お出かけタクシーを「地域内フィーダー」(支線)として、確保・維持して行く必要がある。</p> <p>タクシー以外の公共交通を利用したくても、近くに駅やバス停がなく利用できない「利用不便地域」の解消を目指し、児童・生徒や高齢者等の中心市街地への移動支援を基本とし、「利用しようと思えば利用できる環境」を構築することを目的とする。</p>